

2018年度決算(案) 説明資料

2019年5月24日
明治安田生命保険相互会社

I.	2018年度決算のポイント	P 2
II.	明治安田生命グループの業績	
1.	グループ保険料	P 3
2.	グループ基礎利益	P 4
3.	連結財務諸表、連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV)	P 5
III.	明治安田生命単体の業績	
1.	保険料等収入	P 6
2.	年換算保険料(個人保険・個人年金保険)	P 7
3.	保有契約高(団体保険・団体年金保険)	P 8
4.	基礎利益	P 9
5.	資産運用収支	P 10
6.	健全性指標・企業価値(EEV)	P 11
7.	含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準	P 12
8.	契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)	P 13
9.	損益計算書・貸借対照表	P 14
IV.	スタンコープ社の業績【参考】	
1.	スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益	P 15
2.	損益計算書・貸借対照表(スタンコープ社)	P 16
V.	社員(ご契約者)配当	P 17
VI.	業績見通し	P 18
VII.	トピックス	P 19~P 22
1.	「アフターフォロー」	
2.	「みんなの健活プロジェクト」	
3.	「明治安田生命とJリーグで描く明るい未来」	
4.	「社会貢献活動」	

I. 2018年度決算のポイント

1 明治安田生命グループ・単体ともに「増収増益」、基礎利益は2年連続「過去最高益」を更新

- ・明治安田生命3ヵ年プログラム「MYイノベーション2020」では、引き続き国内で成長が見込まれる「第三分野」「高齢者・退職者」「女性」「投資型商品」の4つを重点マーケットと位置づけ、2018年度では、第三分野における新商品の発売や、外貨建て保険の販売強化に取り組み。また、海外ではグローバルな成長機会を取り込みつつ、既存投資先とのシナジー創出や収益力強化に取り組み。加えて、資産運用においては、超低金利環境のなか、効果的な資産配分による投融資を実施
- ・2018年度の保険料等収入は、外貨建て保険の貢献に加え、2016年3月に子会社化した米国のスタンコープ社の業績好調等によりグループ・単体ともに2年連続の増収
- ・基礎利益は、効果的な資産配分による利息及び配当金等収入の増加により利差益が拡大したほか、スタンコープ社の利益貢献等により、グループ・単体ともに2年連続「過去最高益」を更新

2 財務基盤の強化等を通じて、高い健全性を維持

- ・2018年度には海外劣後債の発行や負債性準備金の積立を行なう等、長い歴史のなかで着実に積み上げてきた財務基盤により、引き続き高い健全性を維持

3 個人保険・個人年金保険の配当率を3年連続で引き上げ

- ・死亡率や入院発生率の改善等をふまえ、死亡保障付商品や入院系特約の危険差配当率を引き上げ
- ・配当の増加対象契約は340万件、増加額は34億円

4 2019年度業績は、明治安田生命グループ・単体ともに「増収減益」の見通し

- ・保険料等収入は、2019年4月に発売した「ベストスタイル 健康キャッシュバック」や、外貨建て保険の貢献等により、グループ・単体ともに増収の見通し
- ・基礎利益は、団体保険料率引き下げの影響や、超低金利環境の継続による利差の減少等を要因として、グループ・単体ともに減益を見込む

Ⅱ. 明治安田生命グループの業績

1. グループ保険料

■ グループ保険料

(単位：億円)

	2018 年度			2017 年度
		前年度比	占率	
グループ保険料 ^(注1)	30,813	+1.9%	100.0%	30,243
明治安田生命単体	27,708	+1.9%	89.9%	27,194
海外保険事業等 ^(注2)	3,105	+1.8%	10.1%	3,049
うちスタンコープ社	2,867	+2.0%	9.3%	2,811

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、グループ業績への反映期間は1月から12月までの12ヵ月

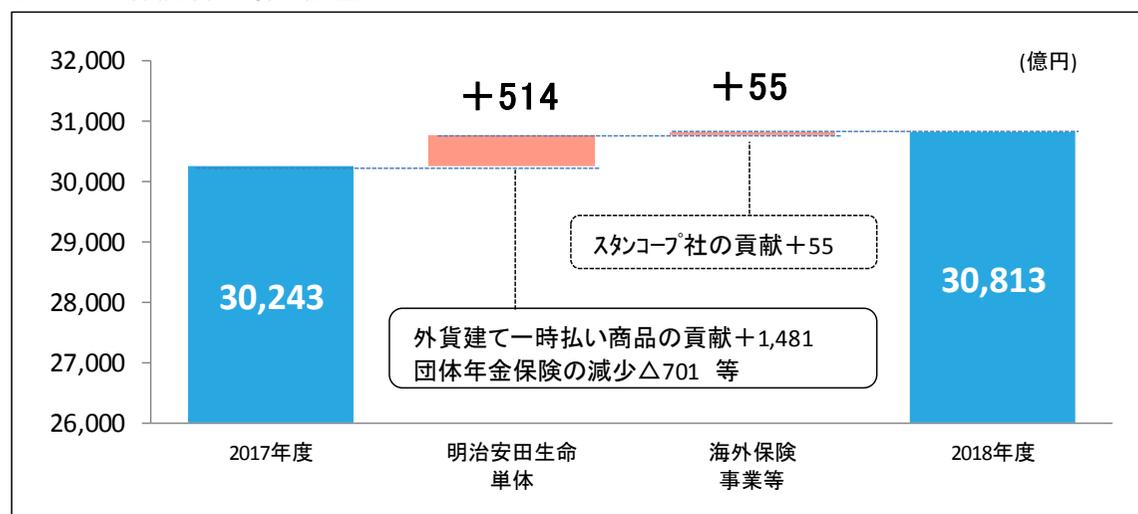
○グループ保険料は、3兆813億円と前年度比1.9%の増加

・明治安田生命単体において、外貨建て保険が貢献したことに加え、スタンコープ社の業績も好調に推移

○グループ保険料のうち、海外保険事業等は、3,105億円と前年度比1.8%増加

・グループ保険料に占める海外保険事業等の割合は、10.1%

■ グループ保険料の増減要因



Ⅱ. 明治安田生命グループの業績

2. グループ基礎利益

■ グループ基礎利益

(単位：億円)

	2018 年度			2017 年度
		前年度比	占率	
グループ基礎利益 ^(注1)	6,338	+8.3%	100.0%	5,851
うち明治安田生命単体	5,896	+7.9%	93.0%	5,467
うち海外保険事業等 ^(注2)	583	+15.2%	9.2%	506
うちスタンコープ社	425	+18.3%	6.7%	359

○グループ基礎利益は、6,338億円と前年度比で8.3%増加し、2年連続で過去最高益を更新

・明治安田生命単体の増益およびスタンコープ社の利益貢献が寄与

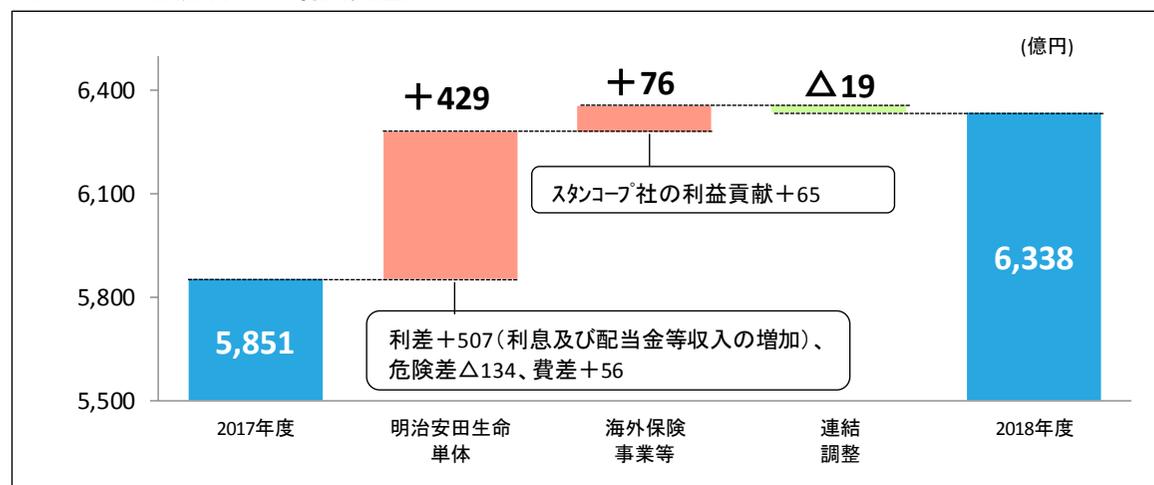
○グループ基礎利益のうち、海外保険事業等は583億円と前年度比15.2%増加

・グループ基礎利益に占める海外保険事業等の割合は9.2%（前年度差+0.5ポイント）

(注1) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、グループ業績への反映期間は1月から12月までの12ヵ月

■ グループ基礎利益の増減要因



Ⅱ. 明治安田生命グループの業績

3. 連結財務諸表、連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV)

■ 連結損益計算書 (要約)

(単位：億円)

	2018年度		2017年度
		前年度比	
経常収益 (A)	41,825	+1.6%	41,170
うち保険料等収入	30,813	+1.9%	30,243
うち資産運用収益	9,802	+2.2%	9,587
経常費用 (B)	37,918	+1.2%	37,468
うち保険金等支払金	24,245	△0.2%	24,288
うち責任準備金等繰入額	4,657	+6.7%	4,366
うち資産運用費用	2,615	+9.6%	2,387
うち事業費	4,681	+1.4%	4,616
経常利益 (A-B)	3,906	+5.5%	3,701
特別損益	△1,340	—	△1,088
法人税等合計	255	—	△46
非支配株主に帰属する当期純剰余	14	+50.4%	9
親会社に帰属する当期純剰余	2,295	△13.4%	2,650

■ 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV) (単位：億円)

	2018年度末		2017年度末
		前年度末差	
連結ソルベンシー・マージン比率 ^(注1)	1,040.1%	+49.9ポイント	990.2%
グループEEV ^(注2)	44,197	△2,274	46,471
終局金利を用いて算出したEEV ^(注3)	約47,000	約△2,000	約49,000

(注1) 「ソルベンシー・マージン比率」とは、大災害や株価の暴落等、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つ。この数値が200%を下回った場合、監督当局による業務改善命令等の対象

(注2) 「ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV)」とは、生命保険会社の企業価値を表わす指標の一つであり、保有契約から見込まれる将来利益の現在の価値や、保有資産の含み損益等で構成

(注3) 超長期部分の金利に、IAIS(保険監督者国際機構)が検討を進めるICS(国際資本基準)をふまえたもの(終局金利)を用いて算出した値

■ 連結貸借対照表 (要約)

(単位：億円)

	2018年度末		2017年度末
		前年度末差	
資産の部合計	421,207	+5,772	415,434
うち現預金・コールローン	13,775	+6,415	7,360
うち有価証券	334,036	+2,751	331,285
うち貸付金	50,198	△2,566	52,764
うち有形固定資産	9,120	△37	9,158
うち無形固定資産	4,671	△178	4,850
負債の部合計	381,342	+7,146	374,196
うち保険契約準備金	353,213	+4,502	348,710
うち責任準備金	343,397	+4,384	339,012
うち社債	5,890	+1,067	4,823
うちその他負債	10,123	+1,209	8,914
うち価格変動準備金	8,169	+1,315	6,854
うち繰延税金負債	2,814	△962	3,777
純資産の部合計	39,864	△1,373	41,237
うち基金・基金償却積立金	9,300	+500	8,800
うち連結剰余金	4,991	△58	5,049
うちその他有価証券評価差額金	24,422	△1,417	25,839

○資産の部合計は、42兆1,207億円(前年度末比1.4%増)となりました。主な資産構成は、有価証券33兆4,036億円(同0.8%増)、貸付金が5兆198億円(同4.9%減)です。

負債の部合計は、38兆1,342億円(同1.9%増)となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は35兆3,213億円(同1.3%増)となりました。

純資産の部合計は、3兆9,864億円(同3.3%減)となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は9,300億円(同5.7%増)、その他有価証券評価差額金は2兆4,422億円(同5.5%減)となりました。

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

1. 保険料等収入

■ 保険料等収入の状況

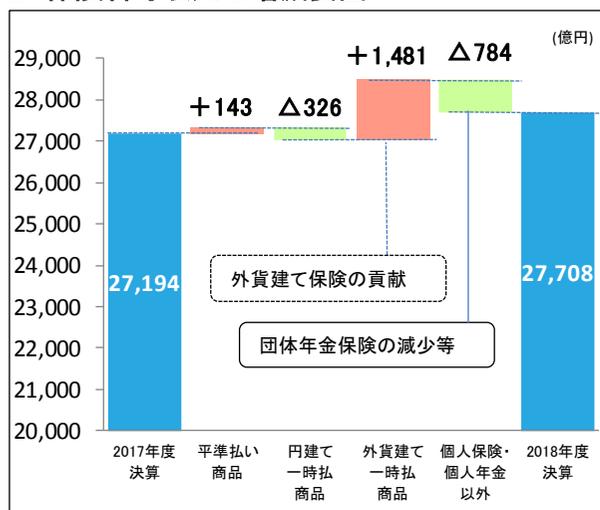
(単位：億円)

	2018年度		2017年度
		前年度比	
保険料等収入	27,708	+1.9%	27,194
うち個人保険・個人年金保険	18,654	+7.5%	17,355
うち営業職員チャネル	14,197	+5.1%	13,505
うち平準払商品	12,326	+1.6%	12,127
うち一時払商品	1,870	+35.7%	1,378
うち銀行窓販チャネル	4,092	+17.3%	3,489
うち団体保険	3,034	△2.8%	3,121
うち団体年金保険	5,655	△11.0%	6,357

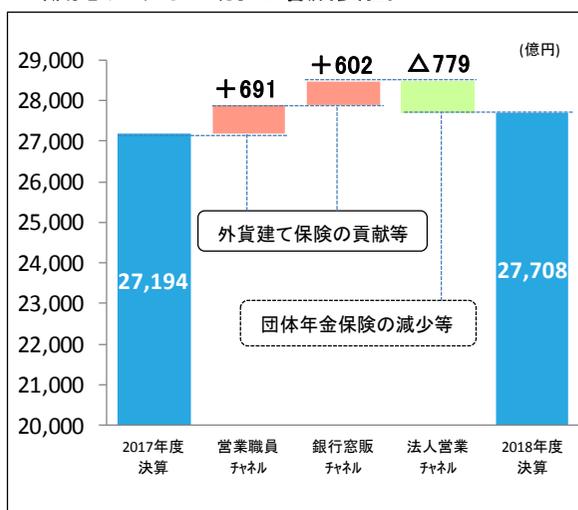
○保険料等収入は、2兆7,708億円と前年度比1.9%増加

- ・外貨建て保険の貢献等により、営業職員チャネル、銀行窓販チャネルともに増収

■ 保険料等収入の増減要因



■ 販売チャネル別の増減要因



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

2. 年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

■ 新契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2018年度		前年度比	2017年度	
新契約年換算保険料	1,413	+10.4%		1,279	
うち営業職員チャネル	1,195	+11.0%		1,077	
うち銀行窓販チャネル	193	+8.9%		178	
うち第三分野 ^(注)	543	+26.9%		428	

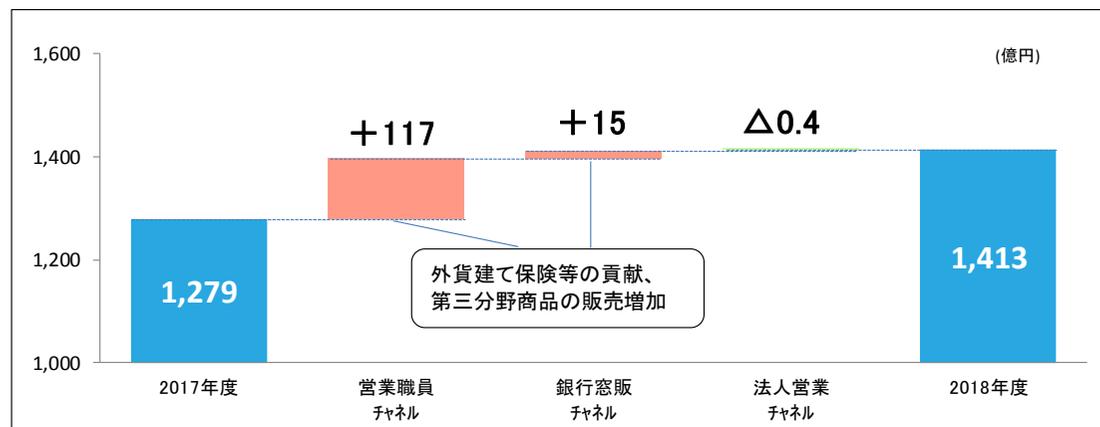
（注）第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

■ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2018年度末		前年度末比	2017年度末	
保有契約年換算保険料	22,656	+0.6%		22,511	
うち営業職員チャネル	16,441	+1.5%		16,202	
うち銀行窓販チャネル	5,752	△1.7%		5,853	

■ 新契約年換算保険料の増減要因（個人保険・個人年金保険）



○新契約年換算保険料は、1,413億円と前年度比10.4%増加

- ・営業職員チャネル、銀行窓販チャネルともに、外貨建て保険等の貢献により、前年度比で増加

○うち第三分野においては、543億円と前年度比26.9%増加

- ・2018年6月にベストスタイルの新特約「給与・家計サポート特約」を発売したことに加え、終身医療保険等の第三分野商品が堅調に推移

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

3. 保有契約高（団体保険・団体年金保険）

■ 保有契約高の状況（団体保険・団体年金保険）

（単位：億円）

	2018年度末		2017年度末
		前年度末比	
団体保険	1,158,156	+1.6%	1,139,442
団体年金保険	76,913	+1.1%	76,072
（国内グループ） ^{（注）}	89,241	+1.3%	88,117

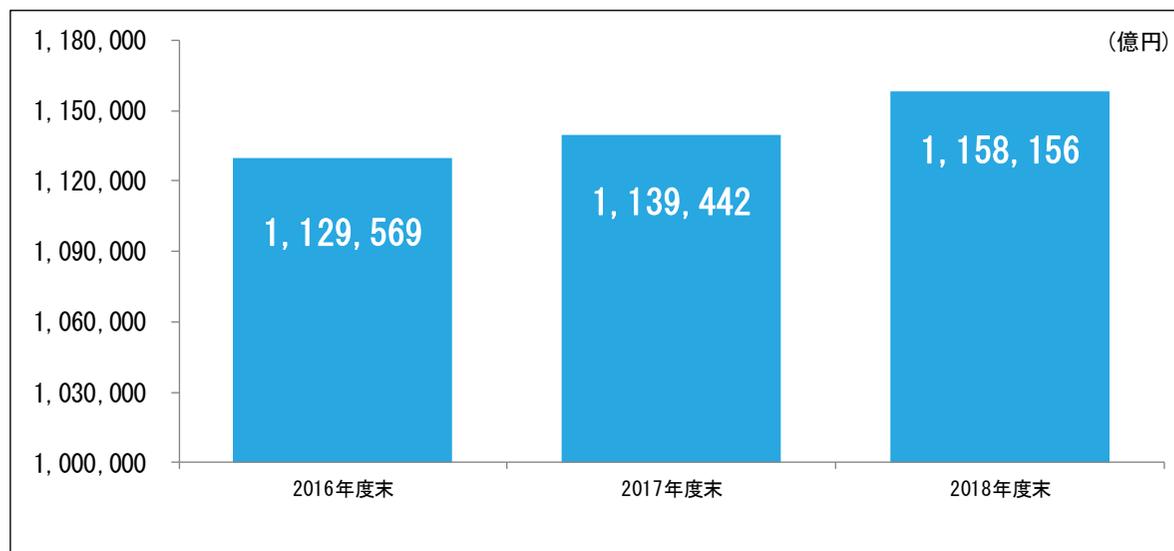
（注）国内グループは明治安田生命単体および明治安田アセットマネジメントの合計

○団体保険は、115兆8,156億円と前年度末比1.6%増加

・引き続き業界トップシェアを堅持

○団体年金保険は、7兆6,913億円と前年度末比1.1%増加

■ 団体保険の保有契約高の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

4. 基礎利益

■ 基礎利益等の状況

(単位：億円)

	2018年度		前年度差	2017年度	
基礎利益 (A)	5,896	+429		5,467	
利差	2,732	+507		2,225	
危険差	2,754	△134		2,889	
費差	408	+56		352	
キャピタル損益 (B)	△1,651	△314		△1,336	
臨時損益 (C) (注)	△509	△63		△446	
経常利益 (A+B+C)	3,735	+51		3,683	

(注) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

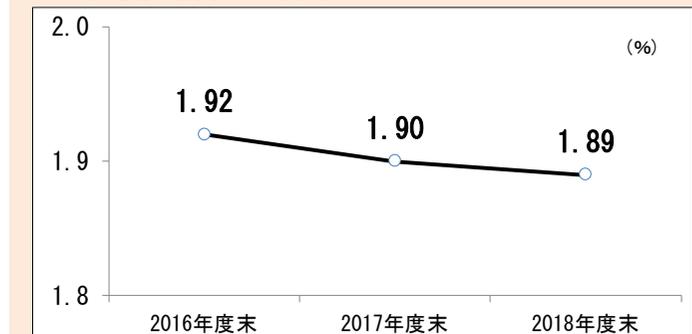
○基礎利益は、5,896億円と前年度差で429億円増加し、2年連続で過去最高益を更新

- ・効果的な資産配分による外国公社債の利息収入増加等から、利差益が前年度差+507億円と大幅に拡大

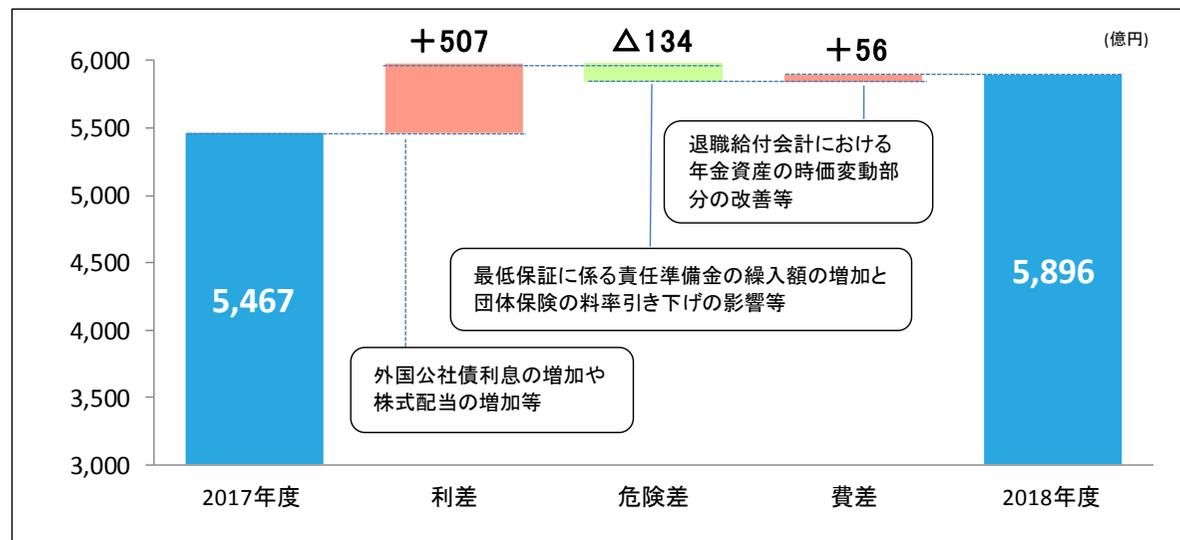
■ 基礎利益の推移



■ 平均予定利率の推移



■ 基礎利益の増減要因



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

5. 資産運用収支

■ 資産運用収支の状況

(単位：億円)

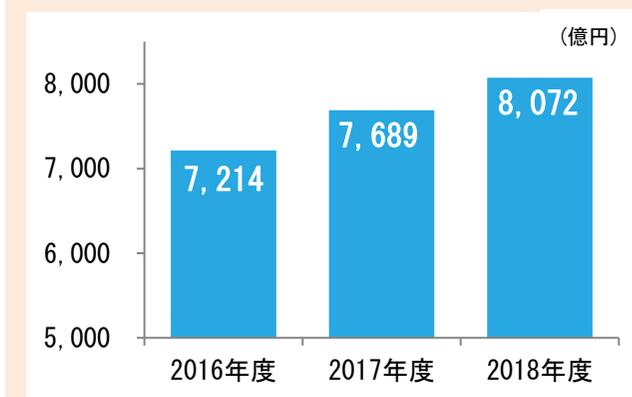
	2018年度		前年度差	2017年度	
資産運用収支（全社）	6,846		+18	6,828	
資産運用収支（一般勘定）	6,808		+353	6,454	
資産運用収益	9,079		+552	8,527	
利息及び配当金等収入	8,072		+383	7,689	
有価証券売却益	157		△94	251	
有価証券償還益	766		+185	581	
資産運用費用	2,271		+198	2,072	
有価証券売却損	375		△5	380	
有価証券評価損	177		+91	85	
金融派生商品費用	1,301		+163	1,138	

○資産運用収支（一般勘定）は、6,808億円と前年度差353億円増加

○利息及び配当金等収入は、8,072億円と前年度差383億円増加

- ・外国公社債の利息収入が増加したほか、企業業績が堅調に推移するなか、株式配当が増加したことがプラスに寄与

■ 利息及び配当金等収入の推移



【参考】2018年度報告の運用環境

	2018年度末		前年度末差	2017年度末	
TOPIX	1,591.64		△124.66	1,716.30	
日経平均株価（円）	21,205.81		△248.49	21,454.30	
10年国債利回り（%）	△0.095		△0.140	0.045	
米国10年国債利回り（%）	2.405		△0.334	2.739	
円相場（円/\$）	110.99		+4.75	106.24	
円相場（円/€）	124.56		△5.96	130.52	

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

6. 健全性指標・企業価値（EEV）

■ ソルベンシー・マージン比率

(単位：%)

	2018年度末	前年度末差	2017年度末
ソルベンシー・マージン比率	983.3	+45.4 ポイント	937.9

○ソルベンシー・マージン比率は、海外劣後債の発行や負債性準備金の積立等により、983.3%と前年度末から45.4ポイント増加

■ 経済価値ベースのソルベンシー比率（ESR）^(注1)

(単位：%)

	2018年度末	前年度末差	2017年度末
ESR	130	+1 ポイント	129
【参考値】 ^(注2)	183	+18 ポイント	165

○オンバランス自己資本は、海外劣後債の発行や負債性準備金の積立等により、2兆9,188億円と前年度末から2,676億円増加

(注1) 当社のリスク量全体(信頼水準99.5%)に対して十分な自己資本が確保できているかを示す経済価値ベースの指標(当社の内部モデルに基づく数値)。モデルについては継続的に高度化を実施

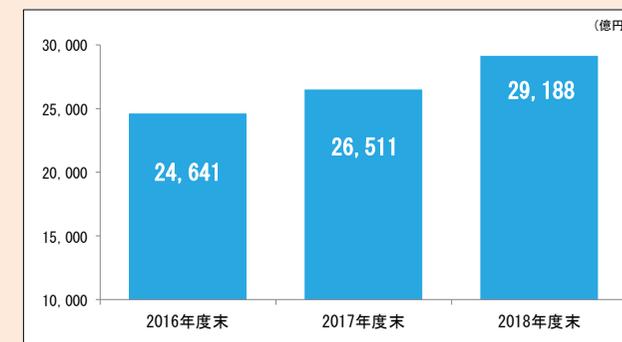
(注2) I A I S (保険監督者国際機構)が検討を進めるICS (国際資本基準)をふまえたモデル【終局金利、運用期待収益率(0.15%)上乘せ、税効果等を反映】に基づく数値

■ オンバランス自己資本

(単位：億円)

	2018年度末	前年度末差	2017年度末
オンバランス自己資本 ^(注3)	29,188	+2,676	26,511

■ オンバランス自己資本の推移



(注3) 資本性が比較的強いと考えられる部分に限定した内部留保と外部調達資本の合計額

○実質純資産額は、1兆1,930億円と引き続き高い財務健全性を維持

■ 実質純資産額

(単位：億円、%)

	2018年度末	前年度末差	2017年度末
実質純資産額	101,930	+3,655	98,275
一般勘定資産に対する比率	26.5	+0.4 ポイント	26.1

○企業価値（EEV）は、5兆2,968億円と前年度末差3,563億円増加

■ 企業価値（EEV）

(単位：億円)

	2018年度末	前年度末差	2017年度末
企業価値（EEV） ^(注4)	52,968	+3,563	49,405

(注4) 企業価値(EEV) = 保有契約価値 + 修正純資産 = 生命保険会社の成長性・収益性・健全性を総合的に示す指標。経済環境の前提、および貯蓄性商品の解約率などコントロールすることが困難な前提を2016年度末で固定していることから、II.3に記載のヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV)とは数値が相違

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

7. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

■ 一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

	2018年度末		前年度末差	2017年度末	
一般勘定資産全体の含み損益	63,749	+1,923		61,826	
うち時価のある有価証券(注1)	58,907	+1,020		57,886	
うち公社債	28,903	+2,481		26,421	
うち国内株式	23,351	△3,326		26,678	
うち外国証券	6,004	+1,898		4,106	
うち不動産	4,711	+608		4,103	

(注1) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

○一般勘定資産全体の含み損益は6兆3,749億円と前年度末差1,923億円増加
 ・株価の下落により、国内株式は減少した一方、内外金利の低下や円安の進行により、公社債・外国証券で増加

○国内株式の含み損益は、月中平均価格ベースで2兆3,351億円(前年度末差△3,326億円)

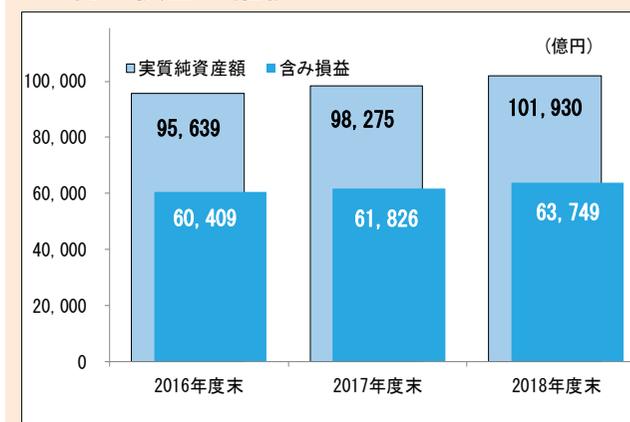
■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオがTOPIXにフル連動するとした場合

	2018年度末(注2)	2017年度末
TOPIXベース	670ポイント程度	660ポイント程度

(注2) 日経平均株価ベースでは8,900円程度

■ 含み損益の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

8. 契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)

■ 解約・失効・減額率^(注1)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位: %)

	2018年度		前年度差	2017年度
	解約・失効・減額率	3.78		+0.22ポイント
解約・失効・減額率	3.78	+0.22ポイント		3.56

(注1) 年度始保有契約年換算保険料に対する解約・失効・減額年換算保険料の割合

■ 総合継続率^(注2)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位: %)

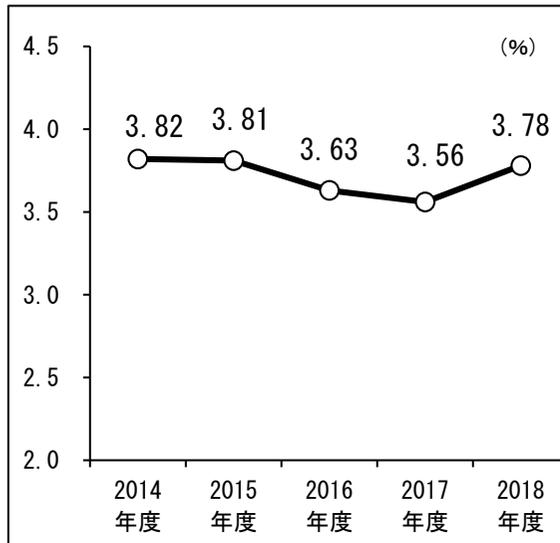
	2018年度		前年度差	2017年度
	13月目総合継続率	94.8		△0.6ポイント
13月目総合継続率	94.8	△0.6ポイント		95.4
25月目総合継続率	89.5	△0.3ポイント		89.8

(注2) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

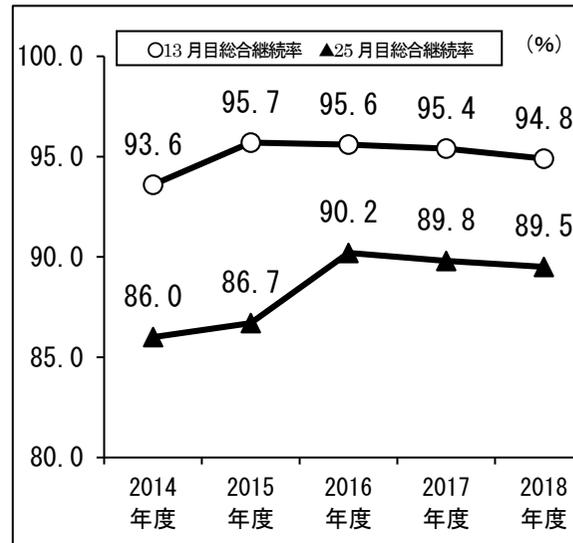
○契約クオリティを示す指標は、良好な水準

- ・解約・失効・減額率は、3.78% (前年度差+0.22ポイント)
- ・総合継続率は、13月目・25月目ともに高水準を維持

■ 解約・失効・減額率の推移



■ 総合継続率の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

9. 損益計算書・貸借対照表

■ 損益計算書（要約）

	2018年度	
	金額	前年度比
経常収益 (A)	37,682	+1.6%
うち保険料等収入	27,708	+1.9%
うち資産運用収益	9,118	+2.4%
経常費用 (B)	33,946	+1.6%
うち保険金等支払金※	22,054	△0.3%
うち責任準備金等繰入額	4,656	+11.1%
うち資産運用費用	2,271	+9.6%
うち事業費	3,574	+0.3%
経常利益 (A-B)	3,735	+1.4%
特別損益	△1,342	—
法人税等合計	167	△14.2%
当期純剰余	2,225	△7.4%

(単位：億円)

2017年度
37,101
27,194
8,901
33,418
22,125
4,190
2,072
3,564
3,683
△1,086
195
2,401

■ 貸借対照表（要約）

(単位：億円)

	2018年度末		2017年度末
	金額	前年度末差	
資産の部合計	392,608	+6,964	385,643
うち現預金・コールローン	12,377	+6,402	5,974
うち有価証券	321,821	+4,002	317,819
うち貸付金	42,238	△2,835	45,073
うち有形固定資産	8,703	△26	8,730
うち無形固定資産	884	+77	807
負債の部合計	352,293	+7,693	344,599
うち保険契約準備金	326,221	+4,747	321,474
うち責任準備金	322,487	+4,502	317,985
うち社債	5,607	+1,074	4,533
うちその他負債	8,881	+1,332	7,549
うち価格変動準備金	8,159	+1,313	6,845
うち繰延税金負債	2,392	△780	3,173
純資産の部合計	40,315	△728	41,043
うち基金・基金償却積立金	9,300	+500	8,800
うち剰余金	4,916	△140	5,057
うちその他有価証券評価差額金	24,502	△1,138	25,640

※保険金等支払金の内訳

	2018年度	
	金額	前年度比
保険金等支払金	22,054	△0.3%
うち保険金・給付金	10,334	△2.5%
うち年金	6,145	△4.8%
うち解約返戻金・その他返戻金	5,525	+10.2%

(単位：億円)

2017年度
22,125
10,602
6,453
5,013

○資産の部合計は、39兆2,608億円（前年度末比1.8%増）となりました。主な資産構成は、有価証券32兆1,821億円（同1.3%増）、貸付金が4兆2,238億円（同6.3%減）です。負債の部合計は、35兆2,293億円（同2.2%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は32兆6,221億円（同1.5%増）となりました。純資産の部合計は、4兆315億円（同1.8%減）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は9,300億円（同5.7%増）、その他有価証券評価差額金は2兆4,502億円（同4.4%減）となりました。

IV. スタンコープ社の業績【参考】

1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益

■ 保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益の状況 (注1)

(単位：億円)

	2018年度		前年度比	2017年度	
保険料等収入	2,867	+2.0%		2,811	
基礎利益相当額 <small>(注2)</small>	425	+18.3%		359	
当期純利益 <small>(注3)</small>	256	△37.2%		407	

(注1) スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、グループ業績への反映期間は1月から12月までの12ヵ月分

(注2) 基礎利益相当額は、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前の税引前利益からキャピタル損益等の一時費用を控除したもの

(注3) 買収会計適用後

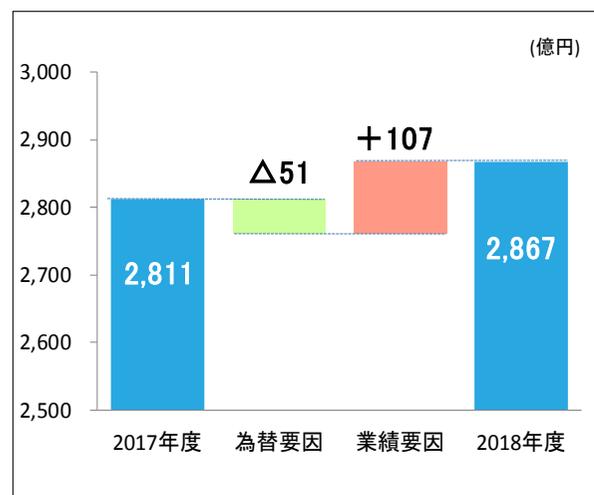
※2017年度は2017年12月末の為替レート(1米ドル=113円)、2018年度は2018年12月末の為替レート(1米ドル=111円)で円換算

○ 保険料等収入は、主力の団体保険事業が順調に推移し、2,867億円と前年度比2.0%の増収

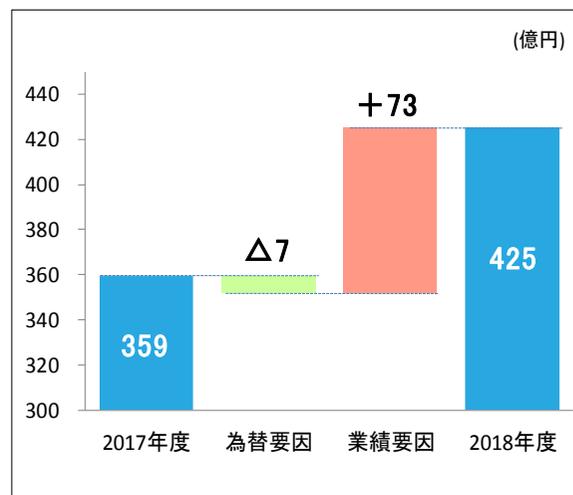
○ 基礎利益相当額は、団体保険事業の給付率低下による収益改善等から、425億円と前年度比18.3%の増益

○ 当期純利益は、前年度比37.2%減益。
なお、2017年度の米国での法人税率引き下げによる繰延税金負債の取り崩しに伴う一時的な利益計上の影響を除くと増益

■ 保険料等収入の増減要因



■ 基礎利益相当額の増減要因



IV. スタンコープ社の業績【参考】

2. 損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）

■ 損益計算書（要約）^(注1)

	2018年度 <small>(注2)</small>	
		前年度比
経常収益 (A)	3,806	+2.0%
うち保険料等収入	2,867	+2.0%
うち資産運用収益	762	△1.6%
経常費用 (B)	3,496	△3.0%
うち保険金等支払金	2,079	+1.5%
うち責任準備金等繰入額	—	—
うち資産運用費用	313	△3.0%
うち事業費	896	+5.9%
経常利益 (A-B)	309	+139.4%
特別損益	2	—
法人税等合計	55	—
当期純利益	256	△37.2%

(単位：億円)

2017年度 <small>(注3)</small>
3,733
2,811
774
3,603
2,049
156
322
846
129
△1
△280
407

■ 貸借対照表（要約）^(注1)

	2018年度末 <small>(注2)</small>		2017年度末 <small>(注3)</small>
		前年度末差	
資産の部合計	33,474	△619	34,094
うち現預金・コールローン	353	△81	434
うち有価証券	18,459	△982	19,442
うち貸付金	7,704	+264	7,439
うち有形固定資産	296	△5	302
うち無形固定資産	4,001	△183	4,184
負債の部合計	27,530	△465	27,995
うち保険契約準備金	26,282	△258	26,540
うち責任準備金	20,265	△129	20,394
うち社債	283	△6	290
うちその他負債	509	△108	618
うち繰延税金負債	369	△97	467
純資産の部合計	5,944	△154	6,098
うち資本剰余金	5,494	△99	5,593
うち利益剰余金	567	+180	387
うちその他有価証券評価差額金	△118	△247	128

(単位：億円)

(注1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、日本の会計基準に準じて組み替え。なお、スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、損益計算書は1月から12月の実績

(注2) 2018年12月末の為替レート(1米ドル=111.00円)で円換算

(注3) 2017年12月末の為替レート(1米ドル=113.00円)で円換算

V. 社員（ご契約者）配当

2018年度決算（案）に基づく社員配当

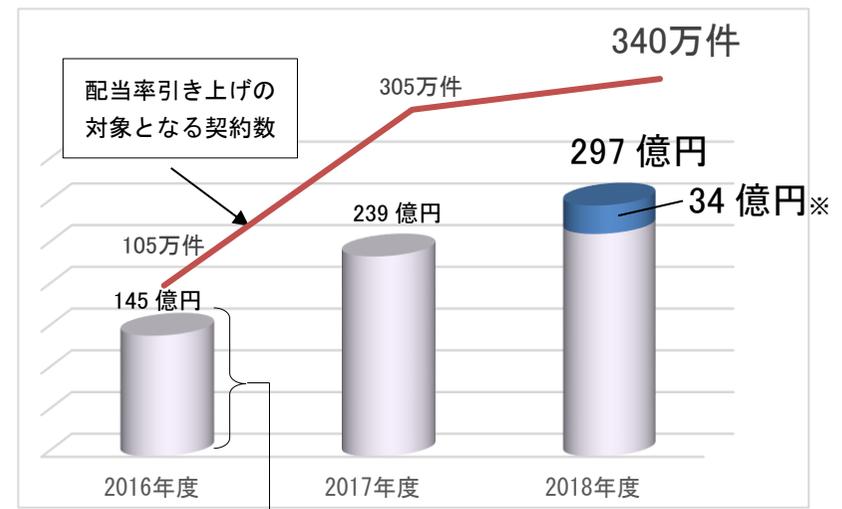
○ 個人保険・個人年金保険について、3年連続で配当率を引き上げ

当社は相互会社として、中長期的に安定した配当還元を行ない、ご契約者の実質的な保険料負担の軽減に努めております。

2018年度決算における個人保険・個人年金保険の契約者配当は、死亡率および入院発生率の改善等をふまえ、死亡保障付商品や入院系特約の危険差配当率を引き上げることで、340万件のご契約において、34億円増加します。

これにより、3年連続の配当率引き上げとなり、前年度をさらに上回る配当還元を行ないます。

■ 配当準備金繰入額の推移（個人保険・個人年金保険）



剰余金からの社員配当準備金繰入額。なお、2018年度決算は、剰余金処分案に基づく金額

※配当率引き上げによる増加額

VI. 業績見通し

2019年度業績見通し

■ グループ保険料の見通し

	2019年度 見通し		2018年度 実績
		前年度比	
グループ保険料 (注1)(注3)	32,300 億円程度	増加	30,813 億円
うち明治安田生命単体	29,200 億円程度	増加	27,708 億円
うちスタンコープ社	2,900 億円程度	増加	2,867 億円

○保険料等収入は、2019年4月に発売した「ベストスタイル 健康キャッシュバック」や、外貨建て保険の貢献等により、グループ・単体ともに前年度から増加の見通し

■ グループ基礎利益の見通し

	2019年度 見通し		2018年度 実績
		前年度比	
グループ基礎利益 (注2)(注3)	5,850 億円程度	減少	6,338 億円
うち明治安田生命単体	5,500 億円程度	減少	5,896 億円
うちスタンコープ社	420 億円程度	横ばい	425 億円

○基礎利益は、団体保険料率引き下げの影響や、超低金利環境の継続による利差の減少等を要因として、グループ・単体ともに減少を見込む

■ 企業価値（EEV）の見通し

	2019年度末	2018年度末
企業価値（EEV）	年平均6%程度増加	52,968 億円

○企業価値（EEV）は、6%程度増加の見通し

※業績予想の適切な利用に関する説明

業績見通しは、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算※

※スタンコープ社について、財務会計の管理方法変更に伴い、2019年度より基礎利益相当額を買収会計適用後の会計ベースでの算出に変更。

なお、変更後基準で算出した場合の2018年度実績は455億円（グループ基礎利益合計は6,368億円）

(注3) 業績見通しにおける想定為替レート：対米ドル110円

Ⅶ. トピックス

1. 「アフターフォロー」

対面のアフターフォロー

確実・迅速に保険金・給付金をお受け取りいただくための
お手続きのサポート、定期点検に加え、これからは健康増進に向けた取組みも対面でサポートします

1. お手続きサポート

- ・ 保険金・給付金のご請求をはじめ、ご契約にかかわる各種のお手続きを完了までサポートします

ご高齢のお客さまなどにはさらなるサポート

- ① MY長寿ご契約点検制度 : 喜寿や卒寿など、長寿の節目を迎えられるお客さまに、保険金等のご請求やご連絡先・受取人変更等の有無を当社から能動的に確認し、その後のお手続きまでしっかりサポートする制度
- ② MY安心ファミリー登録制度 : あらかじめご契約者以外の連絡先（第二連絡先）を登録いただき、ご契約者との連絡が困難な場合などに、第二連絡先にご契約者の最新の連絡先を確認させていただく制度
- ③ 「MYアシスト+」制度 : 書類の記入が困難であるなど、「自力でのお手続きが難しいお客さま」のお手続きをサポートする制度

2. 定期点検

- ・ 毎年ご契約内容を説明し、「最適・最新」な保障となっているか、ご請求にモレはないか、などを確認します
- ・ お客さまを取り巻く環境の変化により、お客さまの保険に対するニーズも変わっていきます。
ご加入の保険が、ご自身の“今”に「最適・最新」な保障となっているかをご確認いただけるよう、「ベストスタイル コンセプトパンフレット」などのご案内しています



「ベストスタイル コンセプトパンフレット」

3. 健活サポート **NEW**

- ・ お客さまにあわせたさまざまなメニューを提供し、健康増進に向けた取組みをサポートします

病気の予防・早期発見などに役立つ
「みんなの健活サービス」のご案内



定期的な“けんしん”（健診・検診）機会のご提供や、
健康増進につながるイベントなどのご案内

対面以外のアフターフォロー

WEBサイト、お電話、郵送などにより対面以外でもサポートします

VII. トピックス

2. 「みんなの健活プロジェクト」

- 2019年度から「お客さま」「地域社会」「働く仲間」の継続的な健康増進を支援する「みんなの健活プロジェクト」を本格展開しています
- 健康は大切だけど、ひとりで何かをはじめるのは難しいもの。だから、健康をまず「知る」、みんなで「つくる」、いっしょに「続ける」、そんな前向きな「健活」を応援していきます

明治安田生命の「健活ポリシー」

① 健康増進の取り組み方は人それぞれ

だから私たちは… お客さまの健康増進に向けたさまざまな取り組み方（プロセス）を応援します

さらに、取り組みの結果（健康診断結果）に応じて、最大で保険料1ヵ月分相当をキャッシュバックします

② 健康増進の取り組みは一人では難しい

だから私たちは… 「対面のサポート」にこだわり、私たちも一緒に、「みんな」で、健康増進に取り組みます。

③ 健康増進の取り組みを続けることは難しい

だから私たちは… 「継続的」な取り組みを応援していくために、健康を知る、日常的に運動する、毎年チェックする、そんなサイクルでお客さまをサポートします

◆ お客さまのステップに応じたメニューを対面のアフターフォローで継続的にご提供

健康を
「知る」

健康を「知る」

- ・「MY健活レポート」

「ベストスタイル 健康キャッシュバック」のご加入者さま専用のサービス

ご提出いただいた健康診断結果をもとにお客さまごとの健康増進に向けたアドバイスをご提供

健康を
「つくる」

健康を「つくる」

- ・「明治安田生命Jリーグウォーキング」

地域のみなさまが地元のJクラブ選手等と楽しみながら一緒に歩くことで、

健康づくりを応援するウォーキングプロジェクトを展開

健康を
「続ける」

健康を「続ける」

- ・「ベストスタイル 健康キャッシュバック」

「病気になったとき、万一のときの保障」に加え、「健康増進の取り組みを応援する機能」を提供



明治安田生命Jリーグウォーキング in OSAKA

Ⅶ. トピックス

3. 「明治安田生命とJリーグで描く明るい未来」

◆「明治安田生命Jリーグ」

- ・「地域に根差し、地域に愛される存在であり続けたい」という思いから、2019年1月にJリーグとのタイトルパートナー契約を更新
- ・これまでの両者の関係を活かして、地域社会の活性化に向けた新たな価値をJリーグとともに創り、提供
- ・加えて、全国の支社等が「明治安田生命Jリーグ」に所属する全55クラブ等（※）とも個別にスポンサー契約を結び、当社従業員、家族、お客さまが一体となって、スタジアムに足を運んで応援。2015シーズンからのスタジアムでの試合観戦者数は、2019年3月に累計100万人を突破

※近隣にJクラブがない場合は、JFL等に所属しているクラブ



明治安田生命Jリーグタイトルパートナー契約調印式の様子 ©J. LEAGUE

◆「明治安田生命Jリーグ女子倶楽部」を結成

- ・当社女性従業員が中心となり、女性ならではの視点でJリーグを盛り上げようと、全国各組織で「明治安田生命Jリーグ女子倶楽部」を結成
- ・試合観戦だけではなく、サッカーへの興味・関心を高め応援の輪を広げていくために、さまざまな活動に取り組んでいます



「明治安田生命Jリーグ女子倶楽部」の活動の様子

◆小学生向けサッカー教室等を全国で展開

- ・地元のJクラブ等のみなさまの全面協力を得て、2018シーズンは、小学生を対象にしたサッカー教室を全国で139回開催し、11,142人のお子様や保護者の方々が参加
- ・あわせて、地元Jクラブやパートナー企業等のご協力のもと、Jリーグ選手OBの講演会等のイベントも開催



小学生向けサッカー教室の様子（高松支社）

Ⅶ. トピックス

4. 「社会貢献活動」

◆ 地方自治体・Jリーグ等と連携し、地域社会に貢献

- ・ 当社は地方創生に関する連携協定を各自治体・地方金融機関・大学と締結
- ・ 2018年度までに28自治体・4行・1大学と結んでおり、今後も、Jリーグを含めた関係各方面と広範にわたる連携を強化して、地域社会の貢献活動に取り組んでいます

◆ あしながチャリティー&ウォーク

- ・ あしなが育英会の協力のもと当社従業員がウォーキングおよびチャリティー募金を通じ、親をなくした子どもたちの進学支援や心のケア支援活動を実施

◆ 「地域を見守る活動」

- ・ 全国のMYライフプランアドバイザーが、日々のお客さま訪問活動を通じて、地域を見守り

◆ 「黄色いワッペン」贈呈事業

- ・ 新入学児童を対象に交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」の贈呈事業に参画



あしながチャリティー&ウォークの様子（東京）



従業員が常時携行するカード



交通安全教室の様子